

第 36 回中国ミニバスケットボール交歓会大会出場報告書

熊野・川中ミニバスケットボールスポーツ少年団

大村 基康

平成 28 年 12 月 23 日から 25 日に開催されました第 36 回中国ミニバスケットボール交歓会大会に参加いたしました。

県決勝大会で第 5 位でしたが、地元開催ということで出場させていただけることとなりました。

初日に行われました開会式の後、続く交歓会では PPAP や恋ダンスなどを取り入れた自己紹介があり楽しい時間を過ごすことができました。

2 日目の予選リーグ第 1 試合目は、鳥取県 1 位のチームとの対戦でした。

基本のしっかりしたチームで、こちらのオフェンスに対する対応能力も高く、後半こちらのディフェンスが機能し始め押し返すこともできましたが、ターンオーバーも重なり相手チームのペースを崩すことができませんでした。

第 2 試合目の鳥取県 1 位のチーム、3 日目の交流戦の鳥取県 2 位のチームとの対戦では熊川らしさを発揮し走るバスケット、見ている人が楽しくなるバスケットを展開することが出来ました。

最後まで全力を尽くした子供たちに感謝、共に支えてくれたご父兄に感謝、そして応援してくれた皆さまに感謝です。

2 日目に開かれた関係者の懇親会において、鳥取県のチームは昨年 10 月に発生した鳥取県中部地震により体育館が避難場所となり満足な練習が出来なかったこと、練習が再開できたときの喜びなど指導者の方からお話がありました。

まだまだ、復興が進んでいない東北や九州熊本など、同じように練習環境が整っていないチーム数多くあると思います。

今回中国大会に参加出来たこともですが、普通に練習が出来て子どもたちと触れ合える、一緒に大好きなバスケットボールをすることが出来る、そういった日常に感謝しながら、これからも活動していきたいと思います。

桜花高校の監督さんの言葉に「長年指導してきましたが、変わらないものが三つあります。バスケットが好き、子どもが好き、教えることが好き、ということです。」とあります。指導者の方によってこの中の「好き」の順番が変わると思いますが、私はこの三つの好きが大好きです。

最後に中国大会開催に際し、ご尽力いただいた皆さまに重ねて感謝申し上げます、私の報告とさせていただきます。

第36回 中国ミニバスケットボール交歓大会に出場して

熊野川中ミニバススポーツ少年団

藤田 陽菜里

私たち、熊野川中ミニバスは、みんながそれぞれいいところをもっていて、そこをいかしながらチームワークで責めて守るチームです。どの試合でも「ぜったいに負けない」という気持ちをもって、がんばってきました。

昨年11月の山口県決勝大会の1日目で負けてしまいましたが、今回は中国大会に4チーム出場できるということもあって、2日目も最後まであきらめずプレーし、残り1つの中国大会へのきつぷを勝ち取ることができました。

山口県代表として、中国大会に出場するからには、チームの目標はもちろん『優勝』です。

1日目、1試合目の法吉（島根県）との試合では、4クォーター、残り30秒、1ゴール差、私たちのオフェンスでしたが、そのチャンスをいかすことができず、負けてしまいました。そこで目標は達成できませんでしたが、2試合目の世紀（鳥取県）との試合では、気持ちをきりかえて、いつもの熊川ミニバスらしい試合ができ、勝ててうれしかったし、少しほっとしました。2日目の交歓試合では、成徳（鳥取県）と試合し、1日目以上にみんなの力をあわせて、勝つことができました。

この大会に出場し、うれしかったこと悔しかったこといろいろありましたが、とても充実した3日間を過ごすことができました。これも、あたたかく、ときにはきびしく指導してくれた監督、コーチ、先生そして見守ってくれていたお父さん、お母さんたち、地域のみなさんのおかげだと思います。

残り小学校でのプレーはわずかになりましたが、みんなでがんばっていきたいと思います。ありがとうございました。

くまかわの

「く」・・・「苦しいときほど声をだす」

「ま」・・・「負けない心を大切に」

「か」・・・「感謝の気持ちを忘れずに」

「わ」・・・「笑える結果になるように」